

事業群評価調書(令和4年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	事業群②:教育庁 児童生徒支援課 事業群③:教育庁 高校教育課	大川 周一 田川 耕太郎
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)	義務教育課	
事業群名	② 豊かな道徳性を育む道徳教育の推進	令和3年度事業費(千円)	※下記「2. 令和3年度取組実績」の事業費(R3実績)の合計額	1,625
	③ 社会の様々な課題を主体的に判断できる力や政治に参画する態度を育てる教育の推進			3,605

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チェンジ&amp;チャレンジ2025 本文)</p> <p>②道徳性を養うため、「考え、議論する道徳」への転換を図るとともに、いのちを大切にする心や思いやりの心をもつ、規範意識の高い児童生徒の育成を学校・家庭・地域が一体となって推進します。</p> <p>③令和4年度から成年年齢が18歳に引き下げられることに伴い、自分が所属する集団である学校や地域社会、広く国家、国際社会を構成する主体としての意識と自覚を高め、社会の様々な課題を自分の問題として捉え、自ら考え、判断し、異なる年齢や異なる社会の人々と協働して行動する力を培う教育を推進します。</p>		<p>(取組項目)</p> <p>i)「長崎っ子の心を見つめる教育週間<sup>※1</sup>」などを通した、いのちを大切にする心や他者を思いやる心の育成と、あいさつや礼儀等の社会性や規範意識などの向上を図る取組の強化(事業群②)</p> <p>ii)小中高12年間を見通した子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進(事業群②)</p> <p>iii)政治的教養教育を通し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成(事業群③)</p> <p>iv)地域が抱える課題を発見し、それを考え行動する探究的な学びを推進(事業群③)</p> <p>v)SDGsの理念に基づき、持続可能な社会づくりの担い手を育成(事業群③)</p> <p>※1 長崎っ子の心を見つめる教育週間:学校、保護者、地域住民が連携して、「心豊かな長崎っ子」を育成するため、県内全ての公立学校で教育活動を公開し、交流を図る取組</p>								
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)	
	②「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における情報モラル教育を通して、他者と共によりよく生きるための道徳性を育てている学校の割合	目標値①	/	89%	90%	91%	92%	93%	93% (R7)	② 「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において、9割を超える学校が情報モラル <sup>※2</sup> 教育教材「SNSノート・ながさき」を活用した取組を実施し、他者と共によりよく生きるための道徳性を育てており、令和3年度の目標を達成した。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大により一人一台端末が急速に普及したことで、各学校において情報モラル教育の重要性が一層高まったことが要因であると考えられる。今後も、この取組状況を一過性のものに終わらせることなく、情報モラル教育を通して、相手の立場に立った言動を大切にする心情や情報社会で安全に生活するための危険回避の理解、生活のリズムなど健康への意識を育てていく。
		実績値②	88% (R元)	93%	/	/	/	/	進捗状況	
		達成率②/①	/	104%	/	/	/	/	順調	
	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)		
	③地域課題の解決や政治、選挙に関心があり、主体的に社会参画を目指す生徒の割合	目標値①	/	60.0%	60.5%	61.0%	61.5%	62.0%	62.0% (R7)	③ 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、例年のような取組みが行われなかった。今年度はこれまで各県立高校で取り組まれている政治的教養教育や探究学習等の地道な取組を行い、主体的に社会と関わり、国や社会、地域の問題を自分の問題として捉えようとしている生徒を着実に育成できることが見込まれる。
実績値②		58.9% (R元)	57.8%	/	/	/	/	進捗状況		
達成率②/①		/	96%	/	/	/	/	遅れ		
									<p>※2 情報モラル:情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度。情報モラル教育は、道徳を中心とする「日常的なモラル指導」と「ネットの特性の理解」の二つの側面がある</p>	

2. 令和3年度取組実績(令和4年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名	事業費(単位:千円)			事業概要  令和3年度事業の実施状況 (令和4年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和3年度事業の成果等		
				R2実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R2目標	R2実績	達成率			
				R3実績					R3目標	R3実績				
				R4計画	R4目標									
事業実施の根拠法令等				事業実施の根拠法令等										
事業期間				法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象							
所管課(室)名														
取組項目 ii	○	1	道徳教育の抜本的改善・充実事業	0	0	1,565	文部科学省の委託事業である道徳教育の抜本的改善・充実事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、県内教職員向けの研修会及び研究協議会を集合研修からオンライン研修へと変更し実施した。また、研究指定校による研究発表会、各市町村教委要請による指導主事派遣事業を通じて、道徳教育の推進に努めた。	【活動指標】	160	0	0%	●事業の成果 ・研修会や研究協議会はオンライン研修へと変更となったが、本協議会等を通じて道徳教育の推進に努めることができた。 ・事業群の目標達成への寄与 ・協議会の開催により、県内教職員へ、豊かな道徳性を育む道徳教育の在り方について周知することができたが、集合による開催にすることで、その効果が更に期待できると考える。		
				1,625	0	1,558		道徳教育パワーアップ協議会の参加者数(人)	200	165	82%			
				3,776	0	1,536		【成果指標】	3.7	0	0%			
			H27- 義務教育課			—		—	—	道徳教育パワーアップ協議会により得られた事業効果(点)	3.7		3.8	102%
取組項目 iv v	○	2	長崎発 未来の創り手育成プラン	3,089	1,413	10,171	「地域魅力化型高等学校支援事業」では地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、「ふるさと教育支援事業」では進学希望者が多い普通科高校4校で県内企業説明会を行った。また、令和3年度新規「ながさき未来デザインSDGs推進事業」の「長崎を元気にするアイデアコンテスト」では20校が活動、研究発表を行った。さらに、「高校生アントレプレナーシップゼミ」では21名が7グループで活動を行い、起業家や行政関係者の支援を受けながらビジネスアイデアを構築し、発表会を実施した。	【活動指標】	—	—	—	●事業の成果 ・地元の行政機関や事業所などと連携し、地域活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの生徒達が、将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった。 ・事業群の目標達成への寄与 ・各機関との連携の実績ができたことで、今後の連携がスムーズに行われ、また、参加校の教諭の指導スキルの向上も見込まれる。このことで、今後の他の取組への広がりや深まりが期待でき、社会に参画する力や課題解決に主体的に関わる資質・能力の育成につながっている。		
				3,605	684	10,127		長崎を元気にするアイデアコンテストにおいて、活動した学校数(校)	20	20	100%			
				8,707	3,691	10,753		【成果指標】	—	—	—			
				H30-R5				—	—	—	アイデアコンテスト参加校において、地域課題を解決し、将来、ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)		85	100
			高校教育課			—		—	—	高校生	90			

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」などを通じた、いのちを大切にすなわち心や他者を思いやる心の育成と、あいさつや礼儀等の社会性や規範意識などの向上を図る取組の強化	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>GIGAスクール構想による1人1台タブレット端末の整備が進められたことに加え、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において情報モラル教育を通じた情報モラルについての理解を重点目標に設定したことで、各学校で主体的な取組が行われ、他者と共によりよく生きるための道徳性を育む意識が高まった。今後も、本県が作成している情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」の継続的な周知、啓発を図りながら、情報モラル教育のより一層の推進が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>今後、継続して「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において、情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を活用した情報モラルについての理解を重点目標に設定することで、引き続き、各学校における主体的な取組を推進し、他者を思いやる心の育成等を図っていく。</p>
ii	小中高12年間を見通した子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和3年度は、オンライン研修や指導主事派遣事業等を通じて道徳教育の推進を図った。また、小・中学校における道徳教育の充実を目指して「長崎県の道徳教育」リーフレットを作成し、県内全ての教職員に配付した。令和4年度は、リーフレットを活用した教員研修や資料提供を通して、学校全体で取り組む道徳教育の更なる充実を図る必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>道徳教育パワーアップ研究協議会(集合・オンライン)の開催規模を拡大し、道徳教育の更なる推進に努める。また、各市町における研修会において、「長崎県の道徳教育」リーフレットを活用しながら、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業改善や学校全体で行う道徳教育の充実についての推進を図る。</p>

<p>iii 政治的教養教育を通し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 政治的教養教育を通じて目指すべき姿や育成すべき資質・能力が生徒、保護者、教職員の間に共有されつつあるが、政治的教養教育が政治や選挙に関心を持っている生徒を育成することだけに捉えられている点が課題である。一方、総合的な探究の時間を活用し、自分の暮らす地域の課題を調べ、解決法を探る課題解決型の学習やふるさと教育等を通じて社会と接することで、当事者意識を高め、社会参画の意識を高める生徒が着実に育成されている。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 各県立高校で計画している政治的教養教育やふるさと教育に関する取り組みを実行するなかで、自分が暮らす地域の課題を発見し、政治的教養教育を通じて目指すべき姿を生徒や保護者等に対して幅広く周知を図る。</p>
<p>iv 地域が抱える課題を発見し、それを考え行動する探究的な学びを推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上しているが、地域課題発見・解決型の探究的な学びへの取組の充実の度合いは学校によって差が見られる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 小中学校のふるさと教育から一歩進んだSDGsの視点での課題発見・解決能力の育成、教師主導から生徒自らが創り上げる探究学習への転換、生徒一人ひとりの進路学習との連動性の充実を図る。また取組の成果について、全校への周知・共有を図る。</p>
<p>v SDGsの理念に基づき、持続可能な社会づくりの担い手を育成</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」、「ながさき未来デザインSDGs推進事業」により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。また、令和3年度までにすべての県立高校でふるさと教育の体系図と実施計画を策定した。一方で小中学校のふるさと教育から一歩進んだ課題発見・解決能力の育成、生徒自らが創り上げる探究学習への転換に課題がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」により、SDGsの視点から地域の課題を発見・解決し、主体的に行動することのできる地域リーダーの育成及び長崎の未来をデザインする起業家精神を持つ人材の育成と、教員の指導力向上を目指す。</p>

#### 4. 令和4年度見直し内容及び令和5年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名 事業期間 所管課(室)名	令和4年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和4年度の新たな取組は「R4新規」等と、見直しがない場合は「一」と記載	令和5年度事業の実施に向けた方向性		
					事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 ii	○	1	道徳教育の抜本的改善・充実事業 H27- 義務教育課	道徳教育パワーアップ研究協議会については、開催場所・回数の増加、夏季休業期間中の開催、オンラインシステムの活用等の工夫を行い、多くの教職員が参加しやすくなるように工夫した。また、「長崎県の道徳教育」リーフレットを活用し、「授業改善」「学校全体で行う道徳教育の充実」など、より実践的な協議を行うようにした。	②	道徳教育の充実を図るため、引き続き道徳教育パワーアップ研究協議会を実施し、多くの教職員が参加しやすくなるよう、開催場所や日程等を工夫・改善していく。また、「道徳科の授業改善」「学校全体で行う道徳教育の充実」と合わせて、「情報モラルに関する道徳科の指導」の充実を図るため、「長崎県の道徳教育」リーフレットの活用、及び、講師による講演を依頼し、協議会の内容を更に充実させる。	改善
取組項目 iv v	○	2	長崎発 未来の創り手育成プラン H30-R5 高校教育課	「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、起業家を中心とした新規ビジネスプランの提案だけでなく、提案されたビジネスプランの実装に向けて企業や行政機関等と連携しながら取組を深化させていく。	②	「長崎を元気にするアイデアコンテスト」や「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、令和3年度、4年度の研究成果を県立高校全校に共有するとともに、未参加の学校の参加を促して地域課題解決型探究の手法や成果を広げていく。	改善

注:「2. 令和3年度取組実績」に記載している事業のうち、令和3年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点